２０１９年４月
山形県病害虫防除所

病害虫防除所技術情報（№13）　－診断技術－

オウトウショウジョウバエとニセオウトウショウジョウバエの発生消長と判別方法

オウトウ果実に食入するオウトウショウジョウバエの近似種に、生態的特徴がよく似たニセオウトウショウジョウバエがいる。
両種の発生消長を調査した結果、発生時期の違いが明らかとなった。また、両種を判別する生態的特徴を紹介する。

【ベイトトラップによる調査結果】

・2016 年に調査を行った結果、オウトウショウジョウバエの初誘殺は５月６日に確認され、誘殺盛期は７月２半旬、８月６半旬、10 月２半旬で、12 月５半旬まで誘殺が確認された。総誘殺数は 2,574 頭であった。

・ニセオウトウショウジョウバエの初誘殺は６月下旬以降とオウトウショウジョウバエよりも遅く、オウトウの果実に寄生できる時期には誘殺数も少なかった。その後も誘殺数は少なく推移し、誘殺数の増加がみられたのは 10 月中旬になってからであった。オウトウへの寄生が可能となるオウトウの収穫時期には、わずかに発生が確認される程度であったことから、オウトウへの寄生・加害は少ないものと考えられた。

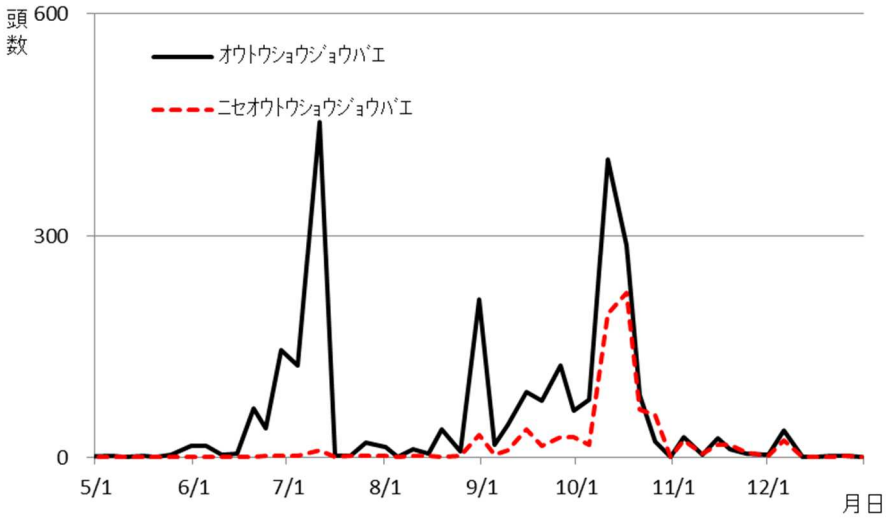

図１　ヤマザクラに設置したベイトトラップによるオウトウショウジョウバエとニセオウトウショウジョウバエの誘殺消長（2016 年）

【寄主植物】

オウトウショウジョウバエの寄生が確認された植物の果実は、サクラ類、ベリー類、ヤマグワ、イチイ、ノブドウ、ヨウシュヤマゴボウ、ヤマボウシであった（病害虫技術情報№12 参照）。

ニセオウトウショウジョウバエは、サクラ類、ベリー類、ヨウシュヤマゴボウ、ヤマボウシで羽化が確認され、オウトウショウジョウバエとほぼ同じ植物の果実であった。

【オウトウショウジョウバエとニセオウトウショウジョウバエの生態的特長】

・両種の雌成虫の産卵管にはギザギザのノコギリ状の突起があり、その上縁部の突起がニセオウトウショウジョウバエの方がより明確である（写真３）。

・両種の雄成虫の翅端には黒斑があり、オウトウショウジョウバエでは丸く、ニセオウトウショウジョウバエでは紡錘形となっている（写真４）。また、前足の性節（sex-comb）が、オウトウショウジョウバエは横１列（２か所）、ニセオウトウショウジョウバエは横２列（２か所）あるが、オウトウショウジョウバエの方が明瞭である（写真５）。

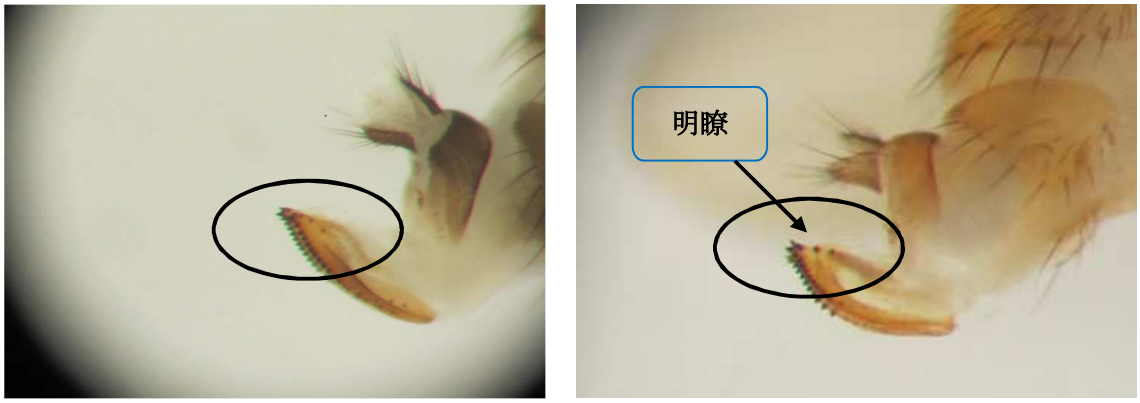

写真３　メスの産卵管上縁の歯の形状
（左：オウトウショウジョウバエ、右：ニセオウトウショウジョウバエ）

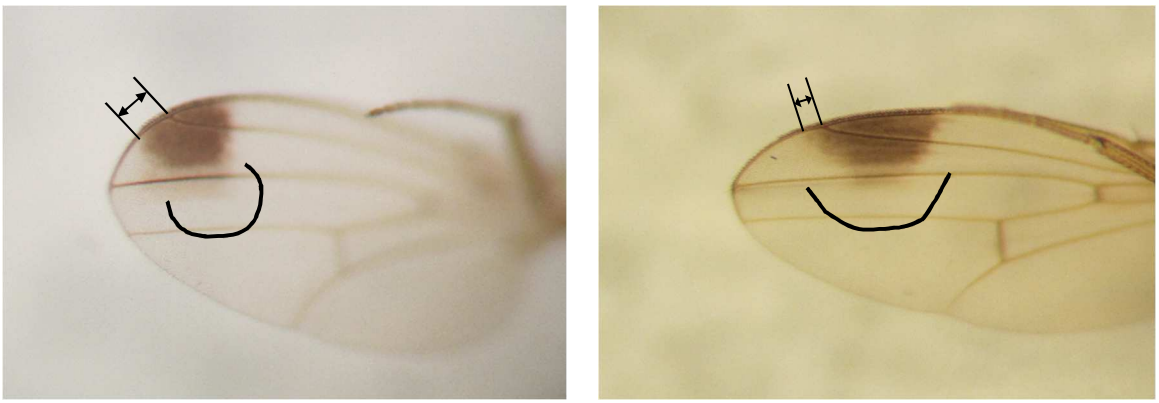

写真４　オスの翅の黒斑の形状
（左：オウトウショウジョウバエ、右：ニセオウトウショウジョウバエ）

写真５　オスの前足の性櫛の形状
（左：オウトウショウジョウバエ、右：ニセオウトウショウジョウバエ）

問い合わせ先　　山形県病害虫防除所　　執筆者：土門　清
℡：023-644-4241　　e-mail：ybyogaichu@pref.yamagata.jp

禁無断転載